

地域振興に関する意見（懇談会委員）

R1.12

☆：市（庁舎）として既に着手または積極的に進めていきたい施策等

基本方針1 『豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現』について

【藤島農産物元気事業】

- ☆・元気食楽部への若い人たちの参加について、もっともっと工夫をしてほしい。
 - ・元気食楽部の取組みについては各方面に欲張らずに「実行可能な目標」を絞って、今後も地元に残っていく取組みを確実に実行してもらいたい。
- ☆・秋まつりでの藤島農産物元気食楽部の振る舞いは良かったと思う。次年度以降は、農産物販売なども視野に入れつつ、地元産品を大いにPRしてほしい。
- ☆・藤島の基幹産業である農業は、魅力の高いものになってほしい。
- ☆・農業、林業という仕事は、環境美化に貢献しているという認識を持つことも必要。
- ☆・農業後継者の育成、サポートにも力を入れてほしい。

【地域農産物加工推進事業】

- ・すいおう推進事業について、庁舎職員が収集などするのはおかしい、手をはなすべきだ。

【食農体験事業】

- ・小学生の国語、社会、理科、家庭科など連携して学習し、考える子どもを育てる。
- ・形式的なものではなく、本気で農業（藤島）に関心を持つような事業になっていくことを願う。

【庄農連携】

- ・庄農生の意見発表を聞く機会があれば、地域との連携も進むのではないか。
- ☆・庄農連携事業の庄農うどん作戦は大成功した。次につながる展開を望む。レシピ公開などで常時販売できるよう、商工業者への呼びかけや仕組みづくりを検討してほしい。

【首都圏大学・農業農村マッチング】

- ・大東文化大学との連携は、内側からは見えないことが見える可能性があるのも、良いと思う。学生は皆明るく前向きで好印象。その明るさを藤島に卸してほしい。
- ・大東大と公益大との連携はどうか。

【その他】

- ・旧東田川郡役所～歴史公園～農業試験場～笹川土地改良区からエコタウンセンターまでの遊歩道設置はどうか。有機栽培、無農薬栽培、特別栽培などの展示説明を付

けて

基本方針2『歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進』について

【Hisu花イルミネーション】

- ☆・せっかくお客様が藤島に来ているのだから、おみやげなどを売って地域にお金が落ちるようにできないか。おみやげは取り寄せして売ってもいいのでは。
- ・ワークショップメンバーは寒河江より注目されたく熱い気持ちで2020年へ向かっている。藤島をイルミネーションで活気づける案はすでに出ている。強く拡充を求める。
- ・すごく綺麗だったとの声が多く聞かれた。
- ・すばらしい！見るだけではもったいない！
- ☆・地域の盛り上がりが見える。今後も住民意見を取り入れて展開させていくことが重要となる。加えて、地域にお金が落ちるような取組みを実施してほしい。
- ・ヒスカなど新たな事業の取組みも成果が見え始めている。継続して、人を惹きつけるもの、特に女性を惹きつけるものを工夫しながら実行していくことが重要と思う。
- ☆・地元の実益が上がる事業展開になるよう、さらなる努力が必要。
 - ・多くの感動と人々の交流に役立っていると思う。
- ☆・点灯式の時のようなイベント（出店だけでも）を、もう少し行えると良いのでは。
 - ・（イルミネーション設置を）道路の方に広げたのは（国道からの誘客の）良い導火線になっていると思うので（設置箇所を国道近くまで）もっと伸ばしてほしい。（国道沿いにイルミネーション周知用看板を設置しても良いのでは。）
 - ・開催期間は延長できないか。（例えばバレンタインデーまでとか。電気代がかさむのであれば、毎日でなくても特定の日点灯するとか。）

【歴史公園・東田川文化記念館】

- ☆・Hisu花と連携した、東田川文化記念館の活用を。イルミネーションを他地域から見に来た方からすると、東田川文化記念館の駐車場の位置が判らず、路上駐車の原因にもなっているのでは。特に夜間は見づらくなることを考慮し、駐車場への誘導も含め、工夫した案内表示が必要ではないか。
- ・歴史公園 目玉になるような、大型遊具がひとつでもあるといい。せっかくカフェがあっても、親がゆっくりしている間に子どもが遊んでいられる場所になっていない。イベントの時しか人がいないし、あまり魅力を感じない。
- ☆・東田川文化記念館 図書館があることを近年知った。表示がない、駐車場はどこか、どの建物か、わかりにくい。図書館に乳幼児の読み聞かせやキッズスペースあればいい。狭いし畳が古くなっている。
- ・歴史公園内に移植できる藤の花の育苗はできないか。希望する地域市民へ配布してはいいかがか。

- ・歴史公園 築山を利用したイベント 例) 大声ヤッホー大会 テーマに「好き」を入れる等

【お土産品開発】

- ・藤の盆栽は、かつて成人式で配った鉢植えのイメージか。大変なのではないか。もっと簡単なものが良いのではないか。

【便益施設】

- ・「いづみや」におみやげとなるものを委託する手法もある。

基本方針3 『くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築』について

【おでかけサポート】

- ・高齢者おでかけサポート 悪くはない。
- ・高齢者世代も生きやすい、お出かけしやすい体制づくりを（買物、ATMなど）。

【定住支援・子育て支援】

- ☆・人口減少対策 若者夫婦世帯を定住させる施策が欲しい。仕事や就職など条件づくり（整備）が必要だ。空き家情報など宣伝も必要。
- ・安定した内容で良いと思う。ただ『若い世代のために』が無く残念です。良案を示せないが、将来的に子どもから高齢者まで暮らしやすい藤島を目指し人口を減らさず、全ての世代で住みやすさを実感できればと考える。
- ☆・働く場所があり育児もしやすい、若い世代が住みたい環境づくりが大切。
- ・買物するためのお金を下ろすのも、車がないと容易でない。高齢者がキャッシュレスをどの程度利用するのか、という課題もあるが、移動販売車をキャッシュレスで利用できるような仕組みも必要ではないか。
- ・若い世代が相談しやすい窓口の体制も大切。三川町のような若い世代への助成も含め、口コミによる情報伝達は、看過できない。
- ・藤島地域 市営住宅が少ないのでは？ 地域人口に対し足りているか？入居できなくて市内等に転校する人がいる。残りたい人がいるのに住むところがなく出て行ってしまうのはもったいない。母子等事情がある人にとってアパートは家賃が高い。安く入れる貸家、家賃補助等あればいい。住むところがあれば悩まないで済む人、地域を出ていく人が減るのではないか。
- ・子どもの遊び場がない（室内）室内で安全に遊ばせたい。ソライまでとはいかなくても、遊具が常設されて小学校低学年くらいまで利用できる場所があるといい。（ソライは高く頻繁には連れていけないし、年パス買うほどでもない）
- ・あいあい広場のような場所が、午後もあるといい。
- ・病児保育のニーズが高い。
- ・（渡前地域に）アパートみたいなものがあると鶴岡へのアクセスも悪くない。完全に

家を建てるとなるとすごく勇気がいる。(児童数の減少に) 歯止めを(かけたい) ともう少して一学年が10人切れるので。そこを少し引き延ばすではないが。

【地域公共交通】

☆・長沼は経済圏が三川町、庄内町にもある。他町との連携した事業も必要では。

☆・長沼地区地域公共交通導入事業について

大東文化大学生がまとめ役となり2回話し合いをした。将来的には必要であること、地理的に三川町、庄内町、酒田市に買い物、通院する方も多くどのような運行ができるのか。また、行政間の調整ができないものか(課題も見つかった)

- ・公共交通整備は今後の高齢化進展に合わせて必須になる、支援策検討は急務と思う。
- ・交通手段の構築 必要性を切実に感じている。仕事柄(免許更新事務)、高齢者の足がなくなると困るのもわかるが、免許更新手続きに来る高齢者が身体的にも判断も大丈夫かなという人が多く見受けられる。周辺自治体と施策の差がある。(庄内町では福祉バスが廻っているのではないか)
- ・藤島体育館～藤島地区地域活動センター～藤島庁舎(歴史公園)～長沼温泉ぽっぽの湯などを結ぶ路線の運用

【憩いの場(仮称)】

- ・気軽に食べたり、お茶したりして・・・見たり、聞いたりして・・・できる場所が欲しい。60歳以上の人口が多い中で(活動センターは、明確な目的で、活動する場所・・・食堂、ドライブインは飲食だけ)

【その他】

- ・(R2 予算要求) 悪いとは言わないが、インパクトに欠ける。トーンダウンしたのでは。もう一発欲しい。これでは一服だ。
- ・お金かけなくても1本やれるかも。庄農うどんのケースあり。
- ・あまりお金をかけないでインパクトのある事業を来年度できれば。藤島をアピールして、庄内日報に載せてもらうなどして
- ・藤島地域まちづくり未来事業、また鶴岡市第2次総合計画が絵に描いた餅にならないように!
- ・将来の藤島地域をどうしたいのか、農業は厳しい中、今のまま農業中心で行くのか、といった構想が、今一つ見えてこないように感じる。長期的展望や指針、方針が必要ではないか。市職員は先を見据え、市民に道筋を示す信号になってほしい。
- ・次世代を担う子どもたち(小・中・高校生)が進学や就職で藤島地域を離れても、将来戻って活躍することが地域振興のため重要だと思います。
- ・地域振興推進事業に可能な限り子どもたちも参加し、ふるさと意識を高めさせたいと思えます。

【市の施策に対して】

- ・市職員自ら考え、行動できる体制を。
- ・市民ファーストであってほしい。
- ・免許返納は1回きり、恒常的な支援はできないものか。
- ・運転免許を返納した人への助成内容を、充実させてほしい。路線バスの助成を受けても、藤島は利用しやすい地域が限られている。
- ・運転免許を返納した人への助成手続きを、身近な庁舎でできるように。
- ・老人クラブ育成、婦人会育成の観点から、助成金、補助金の維持を強く望む。
- ・婦人会への補助金について、何年か先には0円になると急に言われ「今まで市に協力してきたのは何だったのか」「我々の活動は不要ということか」といった声が出ている。補助金を無くする分、物資による補てんや人的支援といった方法もあると思う。老人クラブの補助金の使途も、年々厳しくなっている。「容易でないことはやりたくない」といった風潮があるからこそ、ボランティア団体の育成が必要なのではないか。
- ・小規模、家族農業の経営を維持、支援することが持続可能な食と農の実現に繋がる何と言っても若手の育成支援が必要。また、女性の経営体への参画が重要
- ・米の消費減、人口減という現実から、庄内の水田の3～4割を畑地化にして、野菜、大豆、麦を作れる土地にできないものか。
- ・農業振興では、水田農業のテコ入れとして農地基盤整備がどうしても必要だ。現在の要件となる、高収益作物の導入に縛られるあまり全然進んでいない。大区画化による再整備後に転作を考えていくくらいでないと何も進まない。高齢化の現状や輸出を見据えたコスト削減のためには最大限に急ぐ必要がある。
- ・小水力発電にもっと積極的に取り組むべき。改良区で設置した施設では、相当の売電実績を出している。売電に限らず、ハウスなどへの電力利用も含めて、広く展開していく必要がある。
- ・近い将来の米輸出をにらみ、酒田に燻蒸・精米を合わせた施設整備を要望したい。